

令和元年度 学校安全指導者研修会

学校安全教育推進7-6地区実践発表



串間市教育委員会



県立福島高等学校

串間市の学校安全教育推進上の課題

- 1 南海トラフ大地震が発生した場合、大津波や土砂崩れ等による甚大な被害が想定される。**
- 2 中学校の再編統合に伴い、広域からの通学生が増え、災害時の対応や通学路の安全管理など学校だけでは対応が難しい。**
- 3 小中高一貫教育における、防災教育の効果的な取組を構築していく必要がある。**

課題を更に精査し、早急に対応が必要な事項

- 1 大規模災害時における、児童・生徒の安全確保
(校内での安全対策と登下校時の安全対策)
- 2 地域や専門機関と連携した、安全教育の在り方や安全点検の在り方についての工夫・改善
- 3 小中高一貫教育で取り組む学校安全教育の構築等

※ こうした課題を抱える本地域が、平成30年度に
学校安全総合支援事業の指定を受けた・・・

モデル地域(串間市)の取組

拠点校:串間市立串間中学校・県立福島高等学校

防災に関すること

防犯を含む生活上の安全に関すること

交通安全に関する
こと

学校安全連絡協議会の開催

関係機関(気象台等)との連携

自然災害発生地域訪問

高校生防災リーダー養成研修
生徒会活動の充実・発展

学校安全連絡協議会の開催

専門家による指導・助言

関係機関との連携

先進校・先進地視察

家庭や地域への発信

安全教育推進委員会の開催

(事業推進に向けた協議、取組の検証など)

防災に関することの主な取組例

- 1 防災教育・訓練手法の開発・普及
- 2 学校防災アドバイザーの派遣・活用
- 3 防災教育活動の推進・支援
- 4 地域との連携・協力

防犯・生活安全に関することの主な取組例

- 1 防犯や日常生活における事故を防ぐ能力を高めるための教育手法等の開発・普及
- 2 専門機関等と連携した防犯点検等による実態把握

交通安全に関することでの取り組みめること の主な取組例

- 1 安全を確保するための体制の構築**
- 2 教育手法の開発・普及**
- 3 専門機関等と連携した通学路点検等
による実態把握**

串間市の学校安全に係る平成30年度の重点取組内容

- (1) 地域とのネットワーク構築
～学校安全連絡協議会の設置～**
- (2) 学校安全教育の改善に向けた情報収集
～大震災被災地や安全教育先進地の視察～**
- (3) 「防災・生活安全・交通安全」教育の改善
～学校・地域・専門機関と連携した取組の実践～**

県教育委員会と連携した取組

1 県教育委員会主催の学校安全推進会議への参加

- ・ 拠点校（串間中学校・福島高等学校）の中核教員と共に、担当指導主事が年3回の会議に参加**
- ・ 大学教授や学校安全アドバイザー、気象台職員など防災・安全に係る専門家と協議**
- ・ 串間市の取組等について、その都度報告し、アドバイスを受ける。**

串間市教育委員会の独自の取組

2-① 串間市学校安全連絡協議会の設置

- ・ **設置目的**

串間市内の小中高における、学校安全教育の在り方について、学校、地域、専門機関等が連携して協議を行う。
(年2回以上)

- ・ **組織**

串間市教育委員会、県立福島高等学校、自衛隊、串間警察 串間市消防本部、串間市危機管理課、串間市小中学校校長会、串間市小中学校教務主任会、串間土木事務所、自治会連合会、スクールサポーター、学校安全アドバイザー、串間市青少年育成協議会



串間市教育委員会の独自の取組

2-② 学校安全連絡協議会のH30年度実績

- 学校安全連絡協議会規約の策定
- 通学路安全点検の実施報告及び協議
- 東日本大震災被災地視察報告
- セーフティーフロモート先進校視察報告

学校と連携した防災に係る具体的取組 1

東日本大震災被災地視察

- (1) 視察日時** : 平成30年11月7日～11月9日
- (2) 視察先** : 宮城県 (仙台市、石巻市、女川町、
気仙沼市、岩沼市)
- (3) 参加者** : 拠点校中核教員、市教委指導主事

(4) 視察から学ぶ防災教育改善のポイント① ～石巻市立大川小学校視察～

- ① 学校長不在時の緊急対応
- ② 大規模地震時に起こりうる被害について
全職員による多面的な想定
- ③ 想定される被害を意識した訓練の重要性

(4) 視察から学ぶ防災教育改善のポイント②

～気仙沼市立階上小学校視察～

大津波の被災と避難所運営の経験から学ぶこと



津波から学んだ教訓

- 津波は防げない、逃げるしかないという意識
- 最悪を想定した訓練が必要である。
- マニュアル通りには行かないことの方が多い、しかしマニュアルがなくては**大混乱**となる。
- 大人は**絶望的**思考、子どもは**具体的・行動的**思考をする。
- 復興は**地域とのつながり（自治会との連携）**が重要である。
- 連携は**幼保小中高の行事を揃え、地域の方が参加する機会を幅広く持つ**ことが大切である。

避難所運営の経験から見えた課題

- 寒さ、暑さ対策の面では、暑さ対策の方が難しい
- 飲料水確保
- トイレ対策は重要（水洗トイレが機能しない）
- 教師は児童管理、安否確認優先（数週間必要）
- 避難所運営の救世主（小学校高学年～高校生）
- 自治会にお任せする面が多いので、日頃から顔つなぎをしておくことが重要

学校と連携した防災に係る具体的取組 **2**

専門機関と連携による防災教育

- (1) 実施内容**：気象台職員による津波に関するワークショップ
- (2) 実施校**：串間市立有明小学校
- (3) 参加者**：第5～6学年児童

(4) ワークショップの概要

① 講義 「津波発生のメカニズム」



(4) ワークショップの概要

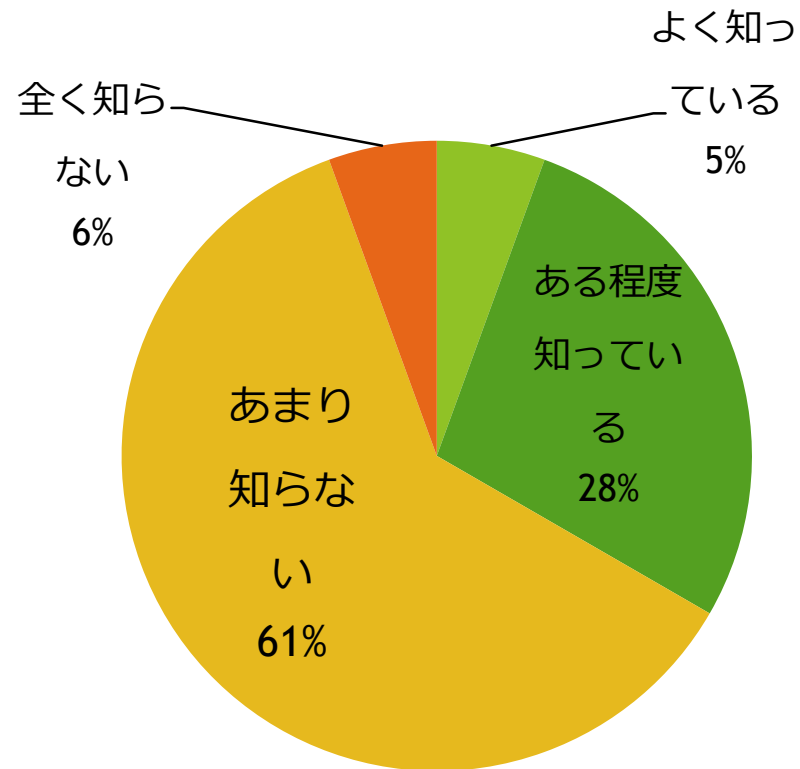
② グループワーク

津波が接近した場合に、いかに、安全に避難するかのシュミレーション型のワークショップ。

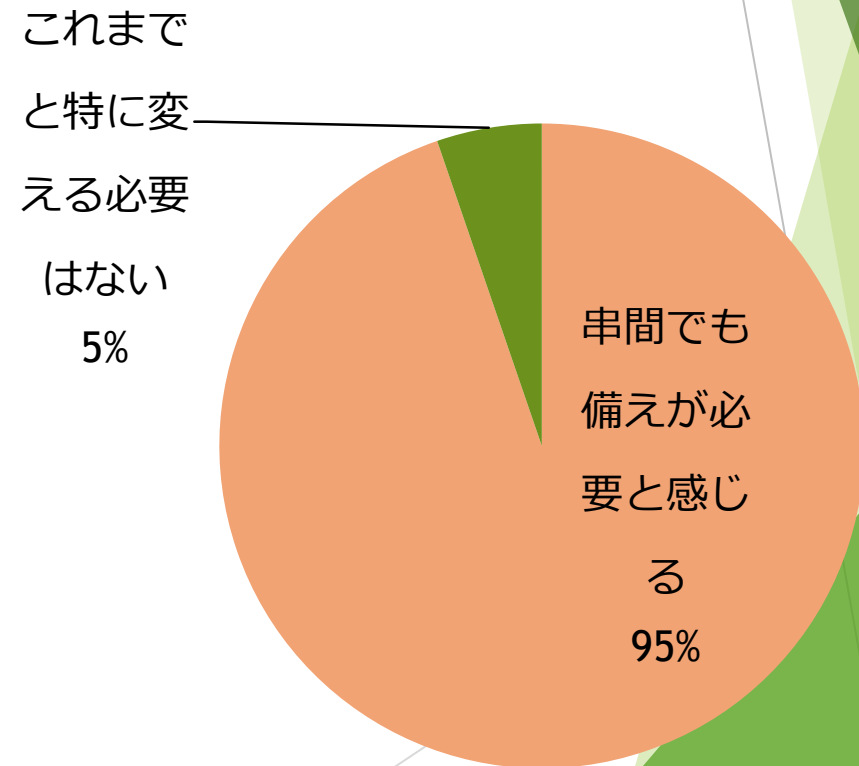


(5) 授業前と授業後の児童の意識変化

① 授業前の津波への認識



② 授業後の津波に対する備えの意識



学校と連携した防災に係る具体的取組 3

中学校におけるハーフフラインド避難訓練（火災）

- (1) 実施内容**：訓練の詳細を生徒や職員に伝えずに火災が発生した想定で避難訓練を実施
- (2) 実施校**：串間市立串間中学校
- (3) 参加者**：全校生徒及び全職員

(4) 避難訓練実施後の考察

- 実際の火災を想定した動きを見届けることができる。**
- 生徒は、想定外の出来事に戸惑いもありつつ、ある程度、臨機応変に動けることが確認できた。**
- 危機管理マニュアルはあっても、自分の役割の把握や職員間のフォローアップが不十分な面がある。**
- 生徒にとっても、職員にとっても、今回のようなリアルな状況設定の中での訓練は、繰り返し行うことで、実践力が養われると感じた。**

学校と連携した防犯・生活安全に係る具体的取組 1

学校・地域・専門機関と連携した通学路合同点検（防犯）

- (1) 実施日 : 平成30年9月27日
- (2) 点検箇所 : 全小学校から事前に依頼のあった通学路
- (3) 参加者 : 串間警察、消防本部、串間市危機管理課
教育委員会、スクールサポーター、
土木事務所、青少年育成協議会、
PTA、自治会
- (4) 点検の視点 : ① 歩道の状況
② 防犯灯及び防犯カメラの必要箇所
③ その他、防犯上の死角等

学校と連携した防犯・生活安全に係る具体的取組 1

通学路合同点検（防犯）を実施して

（1）防犯カメラのメリット・デメリット

- 犯罪の抑止力となる（ダミーでも可）
- 常時監視体制が整う訳ではない
- 少人数登下校への配慮

（2）地域・専門家と多面的な視点で点検

- 郵便や宅配便との連携も有効
- 小学校で把握した情報を串間中学校で集約

学校と連携した防犯・生活安全に係る具体的取組 **2**

携帯電話会社講師による出前授業

- (1) SNSの所持率の増加と低年齢化**
- (2) 全国の事案を元にした具体的指導**
- (3) 他校との集合学習や参観日等とのコラボレーション**

学校と連携した防犯・生活安全に係る具体的取組 **3**

セーフティーフロモーション認定校視察研修

- (1) 視察先** : 京都市立養徳小学校
- (2) 参加者** : 串間市教委（教育指導監）・串間市校長会長
推進拠点校校長
- (3) 事後研修** : 串間市校長会連絡会にて報告
串間市第2回学校安全連絡協議会にて報告

平成24年7月夏季休業中 学校主催の水泳指導教室
で1年生女子が溺死



京都地裁の判決

「3教諭のプール監視状況は油断に満ちたものだった」
「学校管理者側の教員に対する指導にも問題があった」

平成25～30年度 京都市教委『セーフスクール推進事業』指定校

安全教育を軸とした研究「気づき、考え、判断し、行動できる子の育成」

平成28～30年度 『セーフティプロモーションスクール』認証

現在の学校長は、平成24年度教頭として、事故当日対応した経験から
現実的・積極的・汎用的な学校安全教育を推進



- 教師自らの役割が明確にされている。
- マニュアルは緊急時に慌てないよう、使いやすく整理されている。
- チェック体制が2重・3重に行われる。
- バックアップ体制が整っている。

県立福島高等学校における学校安全教育の取組



学校全体としての取り組み①【防災訓練（地震・津波）、講演会（黒岩さん）】



正常性のバイアスを取り除くためには、「知識」と「勇気」が必要！

巨大地震がくると、本校の校舎は倒壊するであろう。2次避難の場所を再考すべき。



教訓

天災は忘れられた頃にやってくる
(知らないうちにやってくる)
↓
でも本日は知る事ができた！

学校全体としての取り組み②【情報モラル講演会（鹿児島国際大学大坪先生）】



今日、生徒の皆さんにお話ししたいこと

- ① インターネットの普及で情報環境がどう変わってきたのか
- ② なぜLINEやgmailが無料なのか
- ③ 匿名性に潜む攻撃性
- ④ 自身の個人情報の管理の責任性と他者の個人情報への配慮
- ⑤ 「手紙や葉書」と「LINEやMixi」、「TwitterやFacebook」、「INSTAGRAMやYouTube」は伝え方がどう違うのか
- ⑥ 法で罰せられるからではなく、配慮と責任での情報モラルの方向を目指そう

2

心理学の側面からも話を切り込んでくださったので、生徒たちには分かりやすいものであった。

無料の代わりに個人情報やデータを盗まれていることを知り、使い方に注意しなければならないと思った。

インターネットで何が変わってきたのか

- ① そもそもインターネットとは何か
もともとはアメリカ国防総省の軍事用ネットワーク
蜘蛛の巣状に張り巡らした情報網は切れにくい！！

情報の伝達性の強さが1番の特徴

種々の情報のやりとりの「即時性」「拡散性」「距離感の無さ」

3



学校全体としての取り組み③【交通安全講演会（菅さん）】



0になること（止まること）への勇気と重要性をご自身の経験を踏まえながら話してくださいました。いつもとは違う視点での講演で、心に残る生徒が多かったです。

互いに相手を思いやって自分の「進みたい」という思いを少し我慢することが、交通事故を未然に防ぐきっかけになると感じた。



学校全体としての取り組み④【防災訓練（火災）、講演会（初鹿野さん）】



災害が起きた時は自分が進んで声をかける立場にならないといけないと思った。津波の動画で家族や知り合いが目の前で流されていることに圧倒されました。

地震の際にはダンゴムシのポーズ、自動販売機に対しては垂直に避ける。学んだことを家族や友達にしっかりと伝えます。



学校全体としての取り組み⑤【災害復旧体験(1)（自衛隊宮崎地方協力本部）】



雨のため、体育館での実施になった。倒壊家屋救助訓練を全体で見た後、4つのブースに分かれて災害時における諸役割を経験した。



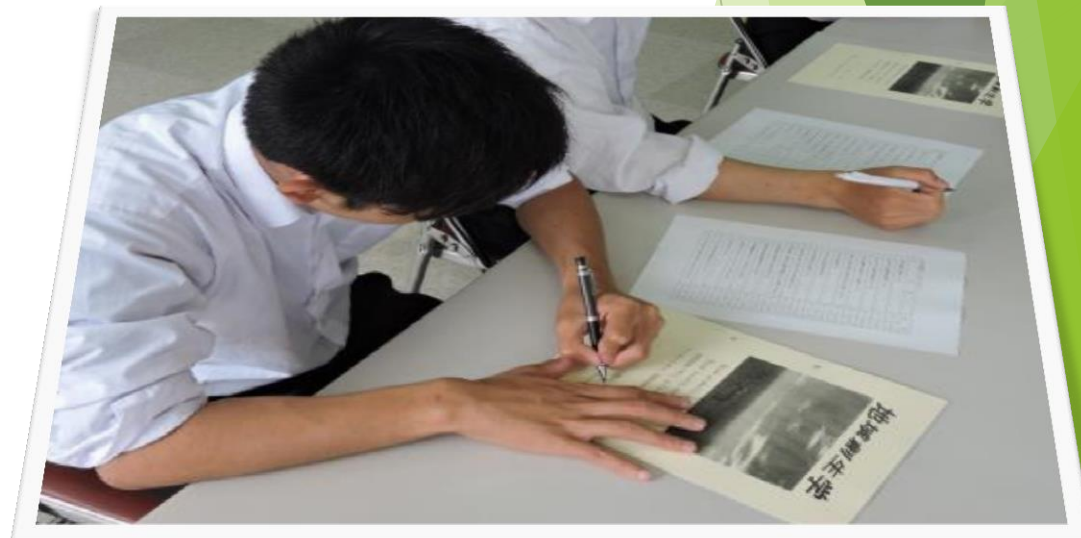
学校全体としての取り組み⑤【災害復旧体験(2)（自衛隊宮崎地方協力本部）】

串間中3年生も一緒に体験。
中学生へのメッセージ。

私たちの
正常性バイアス、多数派同意偏見バイアス
だれも、にげちやらんわ！
大丈夫やろ！
30歳か、津波？
起こるわけ？
あはにやないやっ
（いつか）
「危険」って
危険じゃないと思ってしまうこと…
●中学生と高校生が一緒にできること●
子どもが子どもへ？
不安になっている、泣いている子どもがいたら
一緒に話したり、あんなにして安心させてよう。
料理が得意な人!!
おにぎりや、お汁、お菓子などを手作りしよう!!
絵が得意な人!!
案内マップ、手作り新聞を作ろう!!
① 避難訓練は、人を運ぶことこそが大事!!
② 安全が大事は、同じように安全に守ります!
③ 下にある人は、全員分のカレーライスを作ります!
④ 中継リレーは、みんなが得意なことを、みんなにやらせよう!!
⑤ 中継リレーは、みんなが得意なことを、みんなにやらせよう!!



地域創生学Ⅱとしての取り組み①【災害について知る】



地域創生学Ⅱとしての取り組み②【自分に何ができるか考える】



地域創生学Ⅱとしての取り組み③【危険箇所探索】

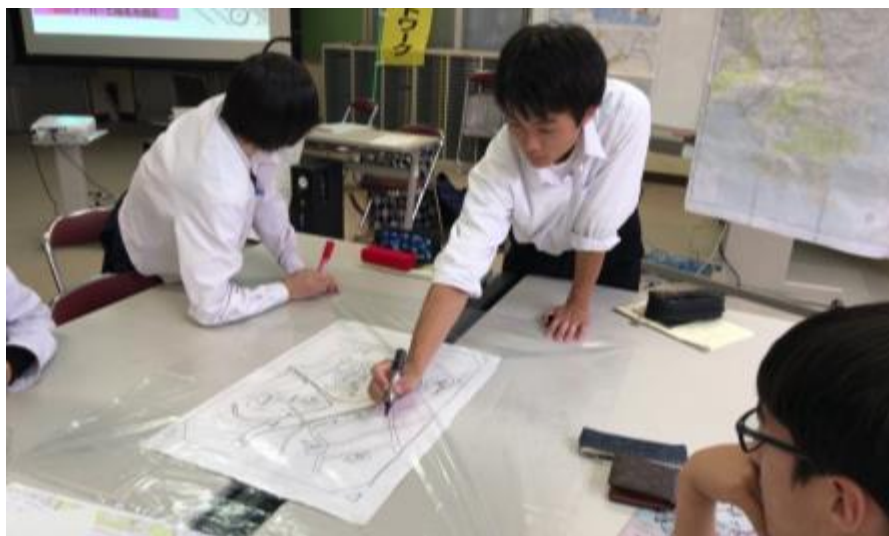
校内危険箇所点検(用紙)

場所 NO	教室() 点検項目	点検方法		定期点検								備考 (異常の詳細 記入)		
		目視	打音	振動	負荷	作動	4	5	6	7	8			
1	窓や出入り口の扉の開閉に、引っかかる、著しく重く、などの異常はないか。	○	○	○		C								扉が重く開かない
2	窓ガラスにひび割れ等の異常はないか。	○					A							
3	開閉可能な窓のクレセントはかかっているか。(不具合はないか)	○		○		B								かざの部分がかかっているかどうか動く

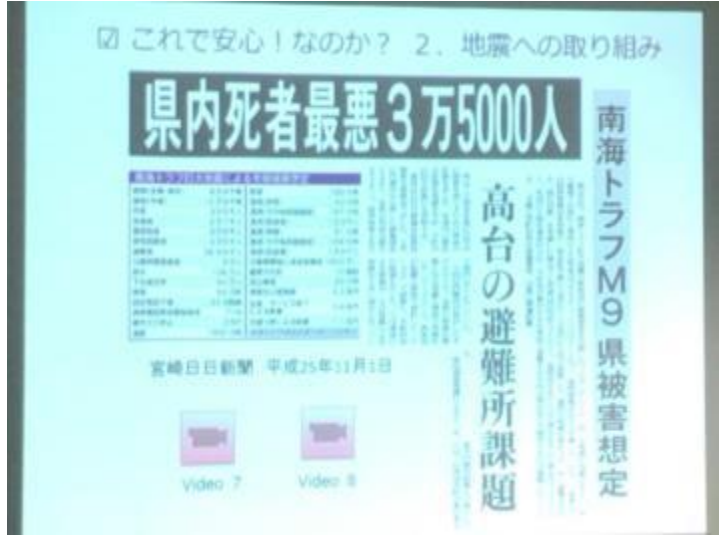
A: 良好で異常はない B: 異常かどうか判断がつかない C: 異常がある(悪い状態)



地域創生学Ⅱとしての取り組み④【救命講習、防災士出前講座】



地域創生学Ⅱとしての取り組み⑤【防災救急航空センターの講話】



地域創生学Ⅱとしての取り組み⑥【防災 Our Action! カードを作ろう】



地域創生学Ⅱとしての取り組み⑦【宮崎地方気象台による講話】



波浪と津波の違い

宮崎地方気象台
Miyazaki Local Meteorological Observatory

津波

地震などにより海底地形が変形することで、海の表面から海底までの海水全体が動いて伝わる現象。波長は数km～数百kmに及ぶこともある。

波長数km～数百km

巨大な水の壁となって長時間力が加わる津波は、陸上のものを破壊しながら内陸まで一気に浸水する

波浪

海域で吹いている風によって生じ、海の表面近くの海水が動く現象。波長は数m～数百m程度。

波長数m～数百m

津波と高さと同じでも、波浪は波長が短いため、一つ一つの波により加わる力は小さく、沿岸で砕け散る

地域創生学Ⅱとしての取り組み⑧【避難所運営シミュレーション】



地域創生学Ⅱとしての取り組み⑨【防災かまど炊き出し訓練】



その他①【自然災害発生地域訪問（生徒5名、職員2名）Ⅳ】



1年間の取組を終えて

(1) 地域とのネットワーク構築 ～学校安全連絡協議会の設置～

成果として

15団体以上の協力を得て、串間市学校安全連絡協議会を立ち上げ、年2回の協議会を実施

1年間の取組を終えて

(2) 学校安全教育の改善に向けた情報収集 ～大震災被災地や安全教育先進地の視察～

成果として

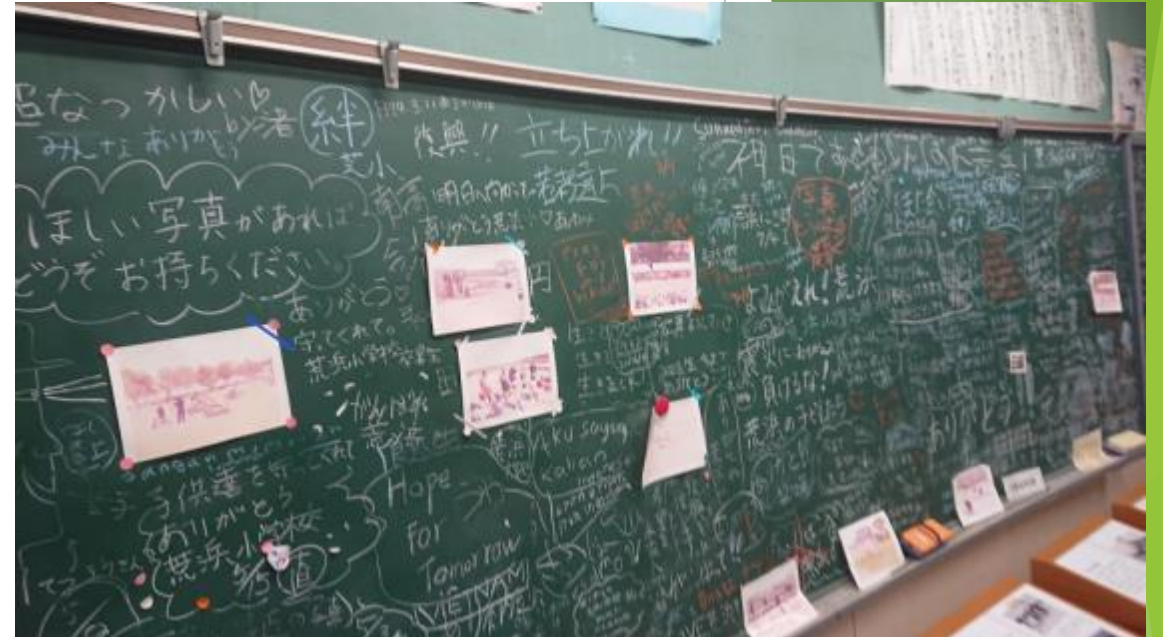
東日本大震災被災地や京都市のセーフティ・フロ
モーション認定校を視察し、経験から語られる学校
安全に係る貴重な情報を収集することができた。

1年間の取組を終えて

(3) 「防災・生活安全・交通安全」教育の改善 ～学校・地域・専門機関と連携した取組の実践～

成果として

生徒アンケートの結果から災害安全に関する意識の向上が見られた。特に地域創生学の一環として防災教育に取り組んできた生徒たちは、最大30%ほどの意識の向上が見られた。



ご清聴ありがとうございました。